

令和7年度 「全国学力・学習状況調査」結果のお知らせ

1. 教科に関する調査について（国語、算数、理科）

◇実施した調査の内容◇

①	②
<p>○身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</p> <p>○実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など</p>	<p>○知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などに関わる内容</p> <p>○様々な課題解決のための構想を立て実践し 評価・改善する力などに関わる内容など</p>

※①と②を一体的に出題。

この調査によって測定できるのは、学力の特定の一部であり、本校児童の一側面となります。調査から得ることのできた成果や課題については、今後の本校の教育活動及び授業改善等に活かしていきます。

結果概要及び改善の方向等については、次ページよりご覧ください。

2. 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査について

◇実施した調査の内容◇

児童生徒に対する調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙 調査

◇本校児童の傾向（全国平均と比較して）◇

- 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがあるという子の割合がやや高い。
- 新聞を読んでいる子の割合が高い。
- 将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思う子の割合が高い。
- 毎日、同じくらいの時刻に起きたり寝たりしている子の割合が低い。
- 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う子の割合が低い。
- 算数の勉強が得意だと思ふ子の割合が低い。
- 健康に過ごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、普段の生活に役立てていると思ふ子の割合が低い。

学校としては、この調査結果を基に、学校と家庭、地域が手を携えあって新陽小学校の子どもたちを育てていけるよう、教育活動の改善に努めます。

教科に関する調査の結果概要及び改善の方向等について〈国語〉

本校の概要

【領域】

「言葉の特徴や使い方に関する事項」

◇全国平均を上回っている。

「話すこと・聞くこと」

◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

「書くこと」

◇全国平均より大きく上回っている。

「読むこと」

◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

○無回答率を全国平均と比較すると、全体的に全国平均よりやや下回っている。

今回の調査における課題

●目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。

●情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。

●時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くこと。

改善の方向

○目的や意図に応じて、詳しく書く必要のある場合や文章の順番などを判断しながら、書き表し方を工夫する学習活動を構成する。

○文や語句の意味を考え、後の情報を詳しくする文なのか、意味をわかりやすくするために、その語句をどこに入れるとよいのかなどを考えながら文を書く学習を行う。

○子どもたちが普段話すときに使う言葉と、書き言葉や異なる世代が使う言葉の違いを取り上げ、違いができる理由を考えながら、言葉の面白さを実感できるようにする。

教科に関する調査の結果概要及び改善の方向等について〈算数〉

本校の概要

【領域】

「数と計算」

◇全国平均を上回っている。

「図形」

◇全国平均を上回っている。

「変化と関係」

◇全国平均を大きく上回っている。

「データの活用」

◇全国平均を大きく上回っている。

○無回答率を全国平均と比較すると、全体的に全国平均よりやや下回っている。

今回の調査における課題

●示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算すること。

例) 必要な情報を選び、ピーマン1個とブロックリー4個の重さを求める式と答えを書く。

●平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図すること。

●異分母の分数の加法の計算をすること。

●はかりの目盛りを読むこと。

改善の方向

○日常生活の問題を解決するために、一つ分、幾つ分の大きさを捉え、式に表したり、式の意味を説明したりする活動の充実。

○示された平行四辺形をかくために、コンパスの開く長さを書き、コンパスの針を刺す場所を選ぶことができるようにする。

○分母の数をそろえるための通分に慣れるようにする。また、分母に合わせて分子を何倍したらよいか、わかりやすく記入して正確に答えを出すことができるようにする。

○はじめに身近な物の重さを測る活動によって、物の重さの感覚をつかむ。その後、重さの見通しをもってから測ることによって、スムーズに目盛りを読むことができると考える。

教科に関する調査の結果概要及び改善の方向等について〈理科〉

本校の概要

【領域】

「エネルギー」を柱とする領域
◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「粒子」を柱とする領域
◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

「生命」を柱とする領域
◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「地球」を柱とする領域
◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

○水の状態についての問題の無回答率が、全国平均よりやや高くなっている。

今回の調査における課題

●乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識を身に付けること。

●水の温まり方について、問題に対するまとめを導き出す際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現すること。

●水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解すること。

●顕微鏡の操作し、適切な像にするための技能が身に付いていること。

改善の方向

○乾電池2個のつなぎ方について、直列につなぎ、電磁石を強くできるものを選べるようにする。

○水の温める際、水に入れた細かなものの動き方によって、温まった水の動き方や広がり方がわかることを表現できるようにする。

○水が、温度によって液体から気体に状態が変化するという実験結果について、適切に表現できるようにする。

○ヘチマの花粉を顕微鏡で観察するとき、どのような操作をすることははっきり見ることができるか、試しながら技能を身に付けることができるようにする。